

第4章

1. 避難者の一員として②

副読本
32～35ページ

年 組 番 氏名

避難者の声

トイレ

- 仮設トイレは足場が不安定で、うちのお父さんは足を踏みはずして便器の中に落ちそうになる。誰かに手伝ってもらいたいと思っても、周りはみんな被災した人たち。頼むことなんかできない。(女性 62歳)
- 避難者のトイレの使い方が汚い。(男性 49歳)
- 病気で骨盤を悪くして車椅子生活を送っている。避難所では多くの手助けを受けているが、トイレに行くのが大変だ。(女性 48歳)

食事

- 避難所の食事は足りてきた。むしろ自宅暮らしの人のほうが不足している。同じ被災者だから、分かちあいたい。(男性 42歳)
- 3か月の赤ちゃんがいるので衛生面が不安。哺乳瓶も1本しかない。大人は我慢できても子供のことを思うと大変だ。(女性 33歳)

風呂

- 早く風呂に入りたい。被災後、全く入浴できず、不快でたまらない。灯油不足で夜は寒く、眠れない。(女性 39歳)

ペット

- 愛犬2匹がいるので避難所の外の車で寝ている。犬がおかしくなってしまったが、ガソリンがなくて病院に連れて行けない。(女性 62歳)
- 一緒に避難した飼い犬が18日、死んでしまった。ストレスが原因だと思う。眠れない夜に思い出して、つらい。(女性 75歳)

その他

- 不便なのは洗濯。干す場所も洗濯ばさみもなく、苦労している。(女性 30歳)
 - とにかく情報がほしい。働き口や住む場所は一体どうなるのか。(男性 47歳)
 - 朝4時ごろになると、せき込む人が多い。水分が足りないからではないか。(女性 69歳)
- (河北新報「避難所 いま」 2011年3月15日～30日掲載より抜粋)

3

「避難者の声」から、それぞれの問題について私たちにできることはないか考えましょう。

() . . .

() . . .

4

普段から私たちが行っていることで、避難生活でも生かし、力になれることはないか考えましょう。



避難所の様子